

苫小牧市総合戦略推進会議

第2回会議資料

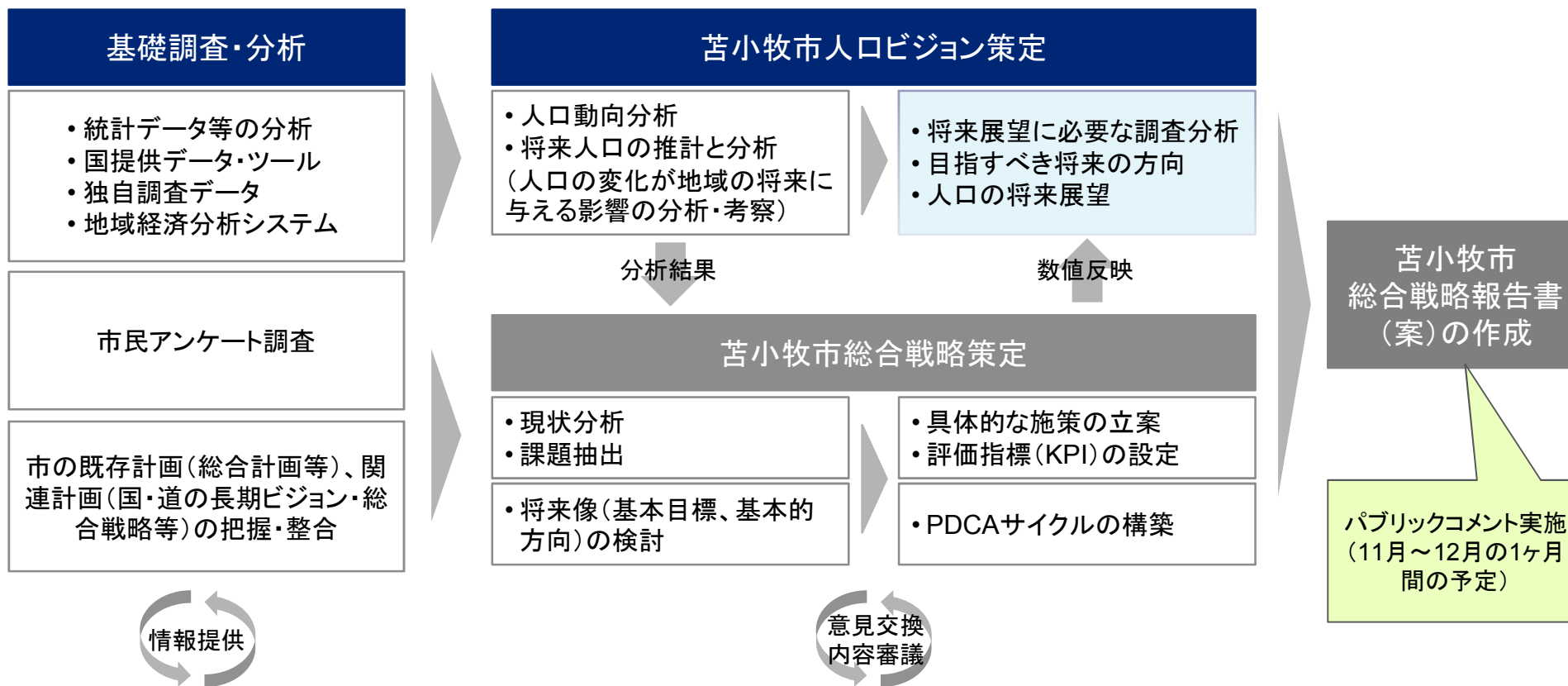
2015年8月19日

0. 会議の概要について(再掲)

苫小牧市人口ビジョン及び地方版総合戦略策定に向け、次の流れで取り組みます

プロジェクト全体像

: 本日報告部分



「苫小牧市総合戦略推進会議」の開催

苫小牧市総合戦略推進会議では、総合戦略策定に向けて以下のスケジュールおよびテーマについて議論をおこないます

苫小牧市総合戦略推進会議の実施内容

Step	日程	会議の実施内容
【第1回】 オリエンテーション 課題共有	7月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 策定の背景・目的の説明 会議スケジュール等の確認 人口動向分析・将来推計結果の報告 各委員の自己紹介(課題認識の共有)
【第2回】 将来像検討 施策案検討	8月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケート結果の報告 人口ビジョン(案)の説明 目指すべき将来の方向性(案)に対する意見交換
【第3回】 総合戦略報告書 (素案)の検討	11月上・中旬	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント(11月実施)の概要説明 総合戦略報告書(素案)の説明 総合戦略報告書(素案)に対する意見交換
【第4回】 総合戦略報告書 (案)の検討	12月中・下旬	<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメント結果報告 総合戦略報告書(案)の説明 総合戦略報告書(案)に対する意見交換
(苫小牧市総合戦略策定)		
【第5回】 報告会	3月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 先行型事業の効果検証について 総合戦略報告書の報告

1. 人口動向分析等からの課題(更新版)

前回有識者会議での委員ご意見

苦小牧市における人口減少の課題認識

<p>苦小牧らしさへの こだわり</p>	<p>■ 苦小牧市らしさにこだわるべき</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 市の優位性や特徴を捉え、他都市のモデルとなる苦小牧市にしたい。✓ 本市は、周辺の市町村に比べれば、人口は減っていない。業種別にみると製造業に従事する方が多いなどの特徴がある。
<p>地域の雇用 強化・安定化</p>	<p>■ 雇用の安定がなければ、結婚に踏み切れない</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 正規雇用率が全国平均より高いといっても十分とは言えない。✓ 期間従業員も多く、5年、10年先が見通せない環境だ。✓ 期間従業員が契約期間終了後に市内に留まれる仕組みも必要。
<p>長期的な 子ども教育 の充実</p>	<p>■ 子どもたちに、きめ細やかで、苦小牧らしい教育を</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 「(子育ての)質の問題」。子どもをより良く育てる環境を整備する必要がある。✓ 長期的には、「教育」が重要。将来苦小牧に残りたいと思ってもらうためには、子どもたちに何を与えればよいかを考えねばならない。
<p>住み続けたい 将来住みたい まちに</p>	<p>■ 住み続けたい、将来戻りたい、と思える苦小牧市に</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 若い世代が転出するのは、苦小牧市に魅力がない、働く場がないからか。✓ 30代になって「戻ってきたい」と考えたときにどこまでサポートできるか。
<p>市民の巻き込み 市民意識の変革</p>	<p>■ 市民の意識をかえる</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 地元の人たちが地方創生にもっと関心を持ち、関わっていくことが重要✓ 出産も子育ても女性だけのものではない。男女の意識を変えていく必要がある。

アンケート結果のまとめ(1)

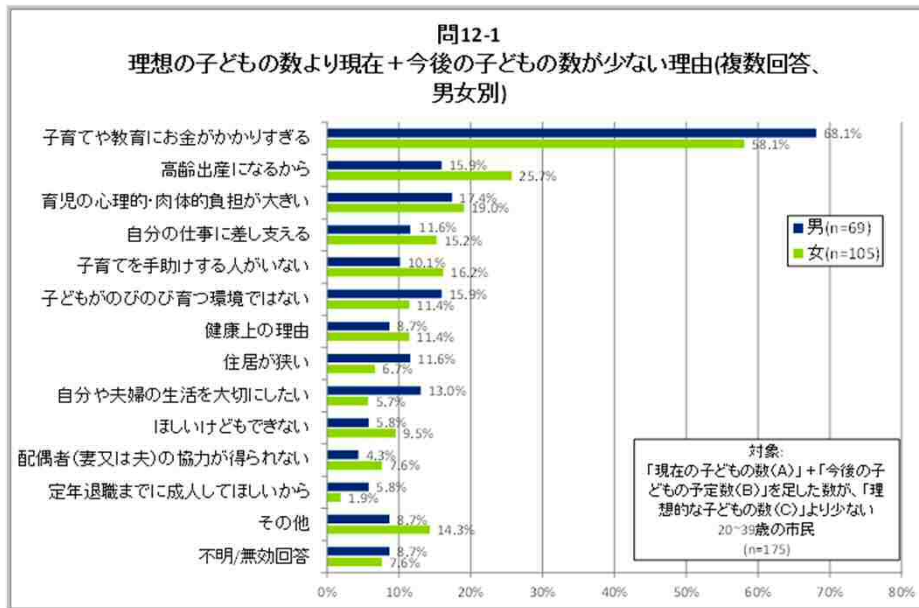
①市民アンケートの結果

■ 理想子どもの数とのギャップ

- 「現在の子ども数」と「今後の子どもの予定数」の合計が「理想の子ども数」より少ないとの回答は、全体の48.6%である。

■ 理想の数に比べ、子どもが少ない理由

- 理想の子供の数より少ない理由をきいたところ、「お金がかかりすぎる」(62.3%)が最も多く、「高齢出産になるから」(21.7%)、「心理的・肉体的負担が大きい」(18.3%)が続いている



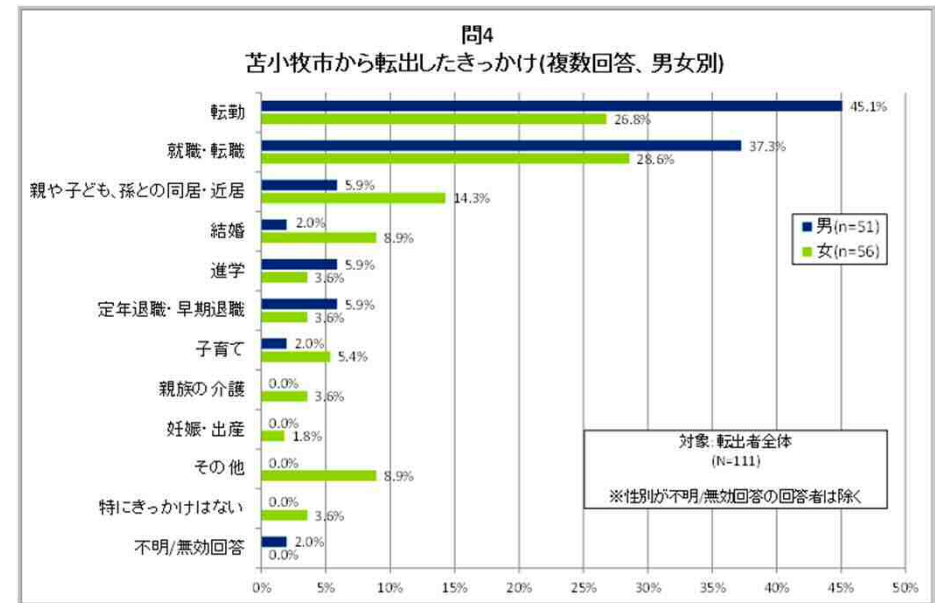
②転出者アンケートの結果

■ 転出後の居住地

- 「札幌市内」が42.3%と最も多く、次点が「札幌市をのぞく北海道内の市町村」が33.3%となっており、道内が75.6%を占める。

■ 転出のきっかけ

- 転出したきっかけを男女別に見ると、男性は「転勤」や「就職・転職」など就業に関する理由が多い一方、女性は「親や子ども、孫との同居・近居」や「結婚」など、家族・親族との生活に関する理由が多い。



アンケート結果のまとめ(2)

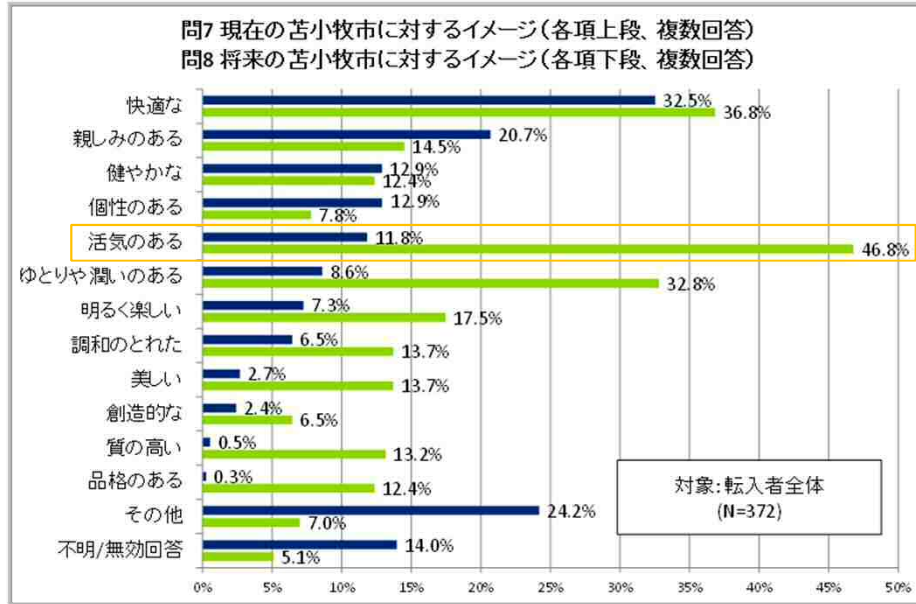
③転入者アンケートの結果

■ 転入のきっかけ

- 転入のきっかけをきいたところ、「自分の仕事・事業のため」(41.7%)、「家族・親族の仕事・事業のため」(22.3)、「自分の結婚のため」(13.1%)が上位を占めている。

■ 苫小牧市のイメージ

- 現在の苫小牧市のイメージとしては、「快適な」(32.5%)、「親しみのある」(20.7%)と回答した者が多く、「質の高い」(0.5%)、「品格のある」(0.3%)と回答した者が少なかった。



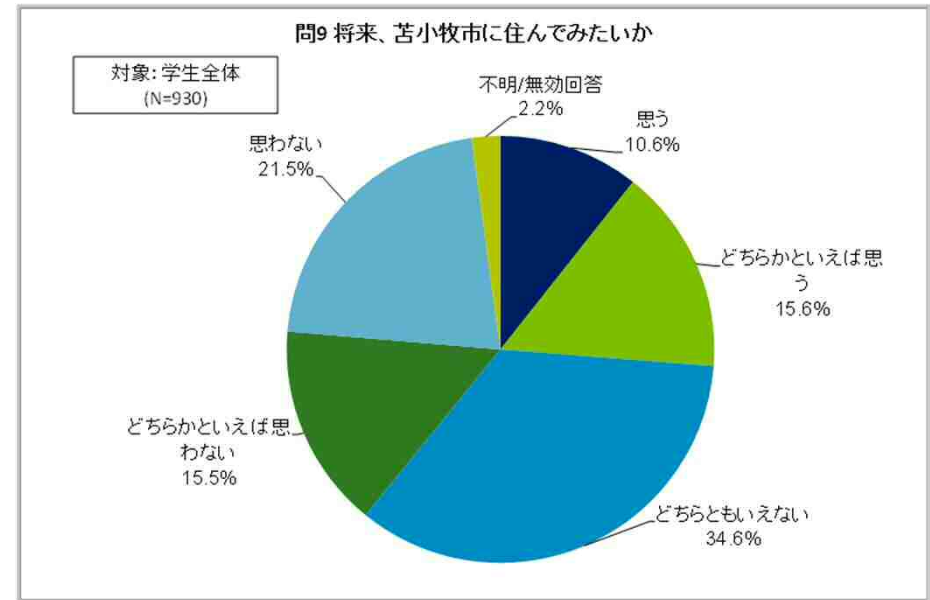
④学生アンケートの結果

■ 将来の苫小牧市への居住意向

- 将来、苫小牧市に住んでみたいと「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると26.2%。居住意向はやや低い傾向にある。

■ 働く場として苫小牧市の魅力度と苫小牧市への居住意向

- 将来の苫小牧市への居住意向を、働く場としての苫小牧市の魅力度別(問12参照)別に分類したところ、魅力的だと回答する学生ほど、将来苫小牧市に住みたいと考えている傾向がみとれた。



市民アンケートでのご意見

市が今後取り組んでいくべき事業のアイデアや地域における課題解決のアイデアなど

しごと (働きやすさ)	<ul style="list-style-type: none">■ 正規雇用の拡充、企業誘致等の維持拡大<ul style="list-style-type: none">✓ 派遣や契約社員から正社員となれる等、安定した雇用を確保する。✓ 女性の労働環境を改善して、男女平等に働きやすくする。✓ 若手だけでなく、中高年の再雇用など、多様な雇用を確保する(外国人やボランティアも含む)。
くらし (生活しやすさ)	<ul style="list-style-type: none">■ 医療・福祉サービスの拡充、子どもやお年寄りの居場所づくり<ul style="list-style-type: none">✓ 医師不足の解消など、医療や福祉サービスの質を向上すべき。✓ 子どもの遊べる場所、お年寄りの集まれる場所を作ってほしい。✓ 生活保護・シングルマザー助成などの不正受給をなくし、適正な支援・助成を拡充してほしい。
子ども・女性	<ul style="list-style-type: none">■ 子育て支援、教育環境の向上、待機児童の削減<ul style="list-style-type: none">✓ 産婦人科不足の解消、子供の医療費・予防接種の無償化による子育て世帯の負担を減らしてほしい。✓ 特別支援学級の設置、学校の誘致、教育産業を活性化させてほしい。
まちづくり	<ul style="list-style-type: none">■ 駅前の活性化、地域内交通(二次交通)の利便性向上<ul style="list-style-type: none">✓ 旧エガオの場所を有効利用できないか。駅前の施設を充実させてほしい。✓ JR新千歳空港駅～苫小牧駅へ快速エアポートを延長。市内バス便を増やすなど二次交通の充実。
苫小牧市の イメージ (PR)	<ul style="list-style-type: none">■ 子どもたちが自慢できる苫小牧市に<ul style="list-style-type: none">✓ 季節ごとのイベントを充実させ、名物・銘菓は道の駅を通じて観光客にPRする。✓ 豊かな自然や工場夜景を活かした観光スポットづくりを行い、観光客が立ち寄りやすくする。✓ 海や本州からの利便性を活かし、道内アクセス拠点を形成し、市のイメージアップをはかる。

まちの強み弱み(暮らしに関する指標)

子育て環境、生活環境に関する状況

■ 子育て環境では、人口あたりの公園数で札幌より有利

➢ 「子どもの子育て環境」の指標(下表)をみると、保育所の待機児童数(2014年10月時点)はゼロではないものの、人口1000人あたりの公園数は北海道や札幌市に比べ高い水準にある。

■ 生活環境に関しては、利便性でやや劣る

➢ 「生活環境」の指標(右表)をみると、ショッピングセンターまでの距離や大学までの距離など、生活利便性の面で、比較した周辺市の中で最も低い水準。
 ➢ 一方で、水のきれいさなどでは、湧水をもつなどの優位性あり。

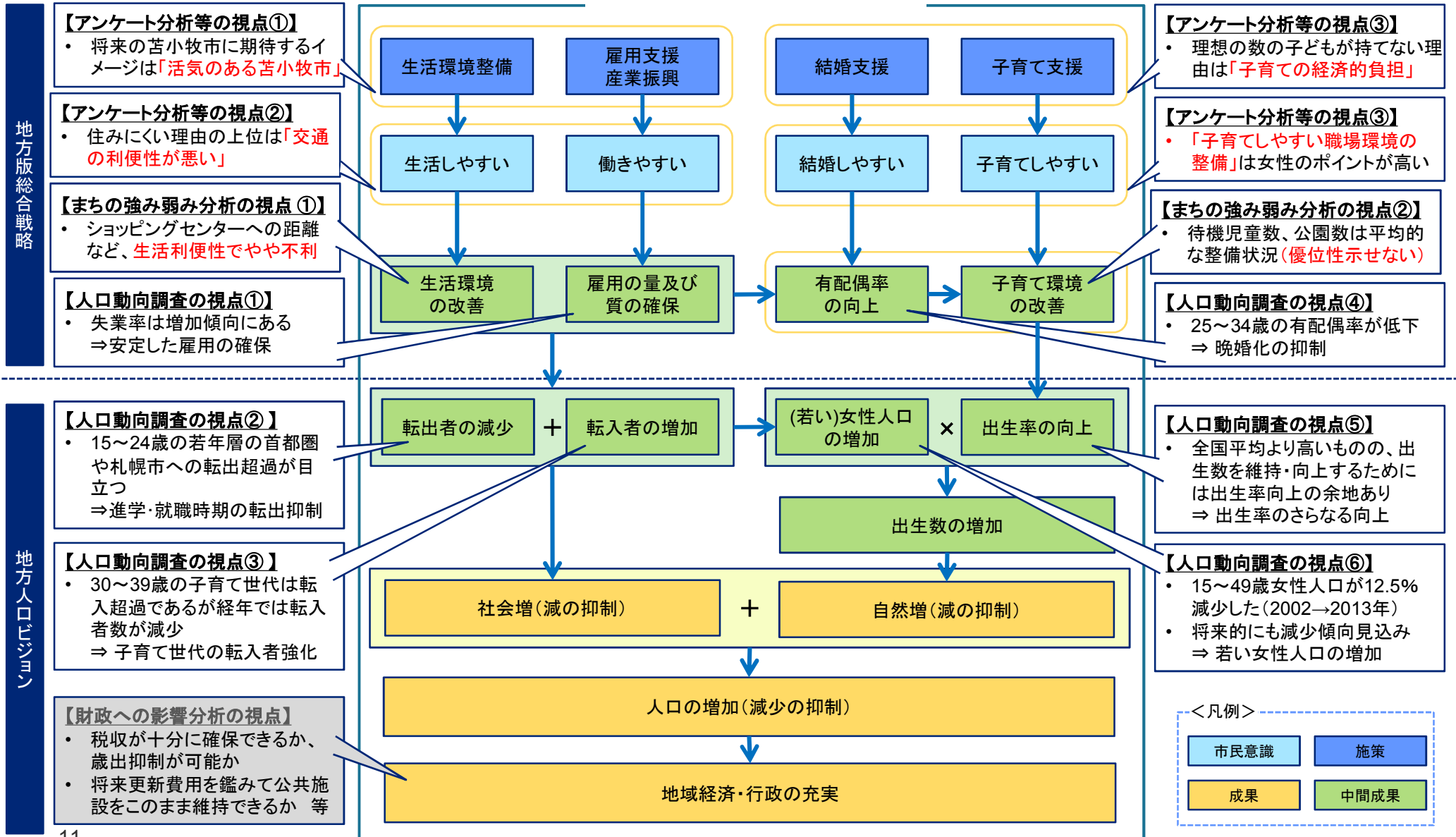
指標名	苫小牧市	千歳市	室蘭市	札幌市	北海道	データ出所
保育所入所待機児童数	60人	0人	—人	760人	1075人	札幌市・北海道・保育所入所待機児童数調査*、苫小牧市・苫小牧市*2、千歳市「待機児童解消加速化プラン」集計結果
子ども(0~4人)千人あたりの保育所数	2.77箇所/人	1.94箇所/人	3.35箇所/人	3.38箇所/人	4.50箇所/人	住民基本台帳年齢階級別人口社会福祉施設等調査
子ども(0~4人)千人あたりの幼稚園数	2.38箇所/人	2.15箇所/人	3.68箇所/人	1.74箇所/人	2.49箇所/人	住民基本台帳年齢階級別人口学校基本調査
人口1,000人当たりの都市公園数	1.85箇所/人	2.12箇所/人	1.30箇所/人	1.40箇所/人	1.31箇所/人	公共施設状況調経年比較表 住民基本台帳年齢階級別人口
人口10万人当たりの病院・診療所数	63.05箇所/人	67.03箇所/人	15.34箇所/人	78.48箇所/人	—箇所/人	住民基本台帳年齢階級別人口医療施設調査
子どものいる夫婦世帯に対する3世代世帯割合	8.6%	7.1%	9.3%	6.8%	11.5%	国勢調査

カテゴリー区分	指標名	苫小牧市	千歳市	室蘭市	札幌市	データ出所
生活利便性	ショッピングセンターへの距離	3.1km	2.3km	2.8km	1.6km	生活コストの「見える化」システム
生活利便性	飲食店の集積度	4.5件/可住地km ²	2.7件/可住地km ²	15.9件/可住地km ²	28.9件/可住地km ²	生活コストの「見える化」システム
生活利便性	鉄道駅までの距離	2.2km	2.5km	1.9km	1.7km	生活コストの「見える化」システム
働きやすさ	通勤通学時間(※都道府県指標)	28.5分	28.5分	28.5分	28.5分	生活コストの「見える化」システム
教育・子育て	小中学校までの距離	1.1km	1.1km	1.5km	0.9km	生活コストの「見える化」システム
教育・子育て	学校での子供に対する先生の目の届きやすさ	18.0人/先生1人	19.1人/先生1人	16.5人/先生1人	20.5人/先生1人	生活コストの「見える化」システム
教育・子育て	大学(短大除く)までの距離	10.9km	7.5km	7.1km	3.0km	生活コストの「見える化」システム
教育・子育て	地域の保育所の待機児童率	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	生活コストの「見える化」システム
医療・福祉	老人福祉施設の在所率	99.7%	88.0%	100%超	88.9%	生活コストの「見える化」システム
医療・福祉	病院又は診療所までの距離	0.7km	0.8km	0.8km	0.5km	生活コストの「見える化」システム
医療・福祉	高度な救命措置が可能な救命救急センターまでの所要時間	77.2分	60.2分	116.6分	22.5分	生活コストの「見える化」システム
災害	今後30年間に、震度6以上の揺れが発生する確率	3.4%	1.1%	1.4%	1.2%	生活コストの「見える化」システム
自然環境	周辺での緑(農地や森林)の多さ(市町村総面積に占める、農地・森林・湖沼の面積の割合)	67.3%	76.9%	49.1%	63.3%	生活コストの「見える化」システム
自然環境	空気のきれいさ(大気汚染物質の濃度)	0.010ppm	0.011ppm	0.011ppm	0.015ppm	生活コストの「見える化」システム
自然環境	水のきれいさ(名水・湧水の有無)	湧水有	名水有	無し	無し	生活コストの「見える化」システム
自然環境	年間平均気温	7.6℃	7.1℃	8.5℃	8.2℃	生活コストの「見える化」システム
ライフスタイル	治安の良さ	86.7件/万人	106.8件/万人	49.9件/万人	97.0件/万人	生活コストの「見える化」システム
ライフスタイル	1住宅当たり延べ面積【平方メートル】	89.17	89.18	84.81	81.36	住宅・土地統計調査

地方版人口ビジョンと総合戦略策定に向けたロジックより 人口増加(減少の抑制)につなげるための課題を抽出しました

□ : 課題
□ : 調査中

人口増加(減少抑制)の仮説ロジック



苫小牧市が目指すべき将来の方向性(案)

(参考)事務局内議論プロセス

主な課題と目指すべき将来の方向性(案)

主な課題		目指すべき将来の方向(案)
問題点(仮説)	出生率	<ul style="list-style-type: none"> 人口維持のためには出生率向上が必要 「経済的負担」が子どもの数を抑制
	(若い)女性人口	<ul style="list-style-type: none"> 若い女性人口(15~35歳)は減少傾向 女性の場合は札幌市内へ転出超過
	子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> 子育て環境で優位性は示せていない 子どもの教育環境の向上
	結婚環境(有配偶率)	<ul style="list-style-type: none"> 女性の25~34歳の有配偶率も低下。 結婚支援で必要なのは「雇用確保」
	働きやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 正規社員の拡充などの雇用の安定化 子育てしやすい職場環境の整備
	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ショッピングセンターへの距離など、バス便の少なさなど、生活利便性でやや不利
	転入	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の仕事(転勤等)を理由とした転入者が過半数を占める
	転出	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学や就職を理由に苫小牧を離れる若者が多い
強み	立地	<ul style="list-style-type: none"> 空港と港の双方にアクセスしやすい立地。 ゲートウェイ機能(人や物流拠点)をもつ

①	<ul style="list-style-type: none"> 進学や就職を機とした若者の流出を抑えるとともに、結婚や転職を機に“移り住みたいまち”として選んでもらえる苫小牧市にする <p>⇒働く場として、有力な選択肢となる施策</p> <p>【ターゲット】市内の学校に通学する高校生、大学生等(10~20代) 【施策例】雇用の拡大(地元出身の新卒者やUターン者の取り込み)、地元企業を知る仕組みづくり(高校生インターンなど)、</p>
②	<ul style="list-style-type: none"> 北海道内の他市町村と比べ、子育て環境などを理由に“住んでみたい”と思ってもらえる苫小牧市にする <p>⇒子育ての場として、他市町村と比較して勝てる施策</p> <p>【ターゲット】市内外在住の子育て世帯(30~40代) 【施策例】子育て環境の整備(子どもの遊び場整備、女性が働きやすい職場環境整備等)、生活利便性の向上、教育環境の充実、等</p>
③	<ul style="list-style-type: none"> 地元の魅力を掘り下げ、伝えることで、将来、子どもたちが“自慢できる”苫小牧市にする <p>⇒苫小牧の魅力や強みを最大限アピールする施策</p> <p>【ターゲット】市民、観光客など 【施策例】地元の魅力の掘り起しや発信(PR)、観光振興を市民を巻き込んで展開(まちなか観光や産業観光など)</p>

人口の将来展望

目指すべき将来の方向性

現状及び課題の整理		補足資料
①就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。札幌市や首都圏への転出を抑制するような雇用環境の充実が課題である。		
人口動向分析	<ul style="list-style-type: none"> 年齢別にみると、20～29歳の転出が最も多い。20代の若者が、毎年2000人近く苫小牧市から出て行っている。 転出超過の移動先は、札幌市、首都圏が大半を占め、男性は首都圏への転出の割合が女性よりも高い。 完全失業率は、男女ともに20年間（1990～2010年）は増加傾向にある。（2015年の完全失業率は減少に転じると予想されるが、依然高い水準にあると言える。） 	第1回資料/P44-45,68
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 高校生、大学生等の場合、市外への転出理由は、進学や就職が最も多い。 「苫小牧市の優良企業として思いつく企業があるか」については半数以上（66.9%）が「いいえ」と回答している。 	資料2/④学生/P5、6
②現在の出生率を維持しても人口は減ることから、若い女性人口を増やすとともに、子育ての経済的負担軽減が課題である。		
人口動向分析	<ul style="list-style-type: none"> 出生率は1.51と全国や北海道に比べ高いが、若い女性人口（15～35歳）は減少傾向にある。 有配偶率の推移をみると、30～39歳の男性、25～34歳の女性の低下が著しい。 	第1回資料/P33、36、37、38
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 理想の子ども数に対し、実際の子ども数が少ないと回答した人が、約半数（48.6%）である。 理想の子ども数が持てない理由の上位は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる（62.3%）」である。 	資料2/①市民/P12
③地域コミュニティの活性化や域内交通の利便性が低いなど、生活環境の改善が課題である。		
人口動向分析	<ul style="list-style-type: none"> 北海道内の周辺市町村からの転入がほとんどである。 年代は20歳～39歳の世代が多くなっている。 	第1回資料/P44、45
暮らしに関する指標	<ul style="list-style-type: none"> 「暮らしに関する指標」において、周辺市町村に比べ、差別化できる項目が少ない。 	資料1/P10
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 苫小牧市のイメージでは、「活気のある」に対する現在と将来のギャップが大きい。（≒今足りない要素） 苫小牧市が住みにくい理由として「交通の利便性が悪い」「娯楽に関する施設が整っていない」などが上位である。 苫小牧市の良さを内外にPRできていない。（自由記述「苫小牧といったらコレという売りがほしい」「水がいいのにPR不足」など） 	資料1/P8 資料2/①市民/P5



方向性の優先順位（濃淡）をお聞かせください。

課題を踏まえた目指すべき将来の方向性（案）

- ①市内の雇用環境を維持・向上させるとともに、市内の住みやすさを改善し、札幌市をはじめとする若年層の転出を抑制する。
- ②子育て・教育しやすい環境を整備するとともに、結婚・子育て世代（特に女性）の転入を増やし、出生率を向上させる。
- ③生活環境を改善し、苫小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やUIターンをより増加させる。

将来展望は、高・低・中位9パターンの推計を行い、戦略の方針に沿って決定します

(参考)事務局内議論中

将来展望の考え方

STEP 1 方針決定のための将来展望の推計

市の方針を決定するため、将来展望を純移動率・合計特殊出生率を高・中・低位で仮定し、9パターンを推計

9パターンの推計結果

方針レベル	合計特殊出生率	×	純移動率
高	人口置換水準(2.1)と仮定	×	過年度データの最高値※2を採用
中	過年度データの最高値(1.78)※1と仮定		移動率がゼロ(社会増減がゼロ)
低	直近合計特殊出生率(1.51)が続くと仮定		直近移動率がこのまま続くと仮定

STEP 2 総合戦略と整合した将来展望の決定

総合戦略の基本目標や施策の方向性と仮定値(出生率・人口移動率)を整合し、市としての将来展望を決定する

#	合特殊出生率 (自然動態)		純移動率 (社会動態)		推計結果	
	高	中	高	中	2040年	2060年
①	高		高		191,296	194,172
②	高		中		154,702	136,305
③	高		低		149,386	132,285
④	中		高		187,504	182,493
⑤	中		中		151,533	127,673
⑥	中		低		146,535	118,891
⑦	低		高		184,160	172,882
⑧	低		中		148,744	120,584
⑨	低		低		144,023	112,911

検討、決定

14 ※1: 苫小牧市出生率(1983~1987) / 人口動態調査より
 ※2: 過去30年間で最も人口移動率が高かった年の値(1990年→1995年) / 国提供データより

2. 人口の将来展望

将来の展望

将来展望のシミュレーション結果

人口(人)

参考値
 パターン1（社人研推計準拠） 2040年=143,885人 2060年=112,810人
 パターン1（日本創生会議推計準拠） 2040年=140,665人

